



通水50年の歩み

簡易水道などの上水道前史

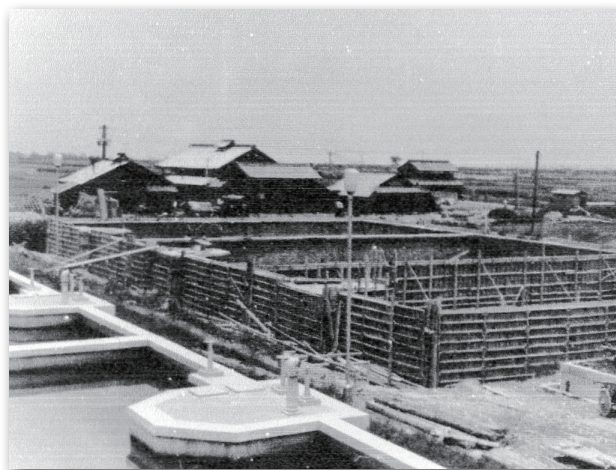
昭和33年12月議会において、木川町住民からの要望により、草津川伏流水を水源とした井戸（上笠橋付近）による草津市簡易水道（計画給水人口400人）が計画され、翌年から給水が始まりました。

その後、矢橋町で農業用水事業の影響で家庭の井戸が枯れかけたため、鞭崎神社裏に深井戸（口径250mm・深さ30m）を掘り、昭和36年8月1日に給水人口1,400人で給水を開始しました。なお、上水道事業の整備に伴い、昭和41年8月1日に両地区とも簡易水道を廃止しました。こうした簡易水道以外にも、古くから数集落で、独自に竹管を用いた水道が行われていたようです。また、水道ではありませんが、「えんこう」と呼ばれる湧水が各地に見られました。

草津市水道の創設

旧市街地を始め草津市における大部分の井戸水は、多量の鉄分を含んでいるため、住民のもっとも必要とする飲料水の水質は非常に悪く、日常の洗濯にも困っていました。また、工場用水も同様で、工場誘致の推進が図れませんでした。

そこで、良質の飲料水及び工場用水を給水することにより、市民の生活衛生環境を改善し、また、工場設立による産業・雇用振興を推し進める目的をもって、湖岸北山田に緩速ろ過式の浄水場を設ける上水道計画がたてられました。そして、国の創設事業認可を昭和35年12月に受け、昭和36年4月に事業に着手しました。



北山田浄水場建設

創設事業認可	昭和35年12月 (北山田浄水場の新設)
給水区域	草津市草津町・大路井町・矢倉町・木川町・渋川町・野路町・追分町
計画給水人口	14,500人

一日最大給水量	3,190m ³
工事着手	昭和36年度
総工事費	445,000千円
水源	北山田湖岸 琵琶湖中150mの所から取水

当初は、給水区域を1期、2期に分けて順次進める計画でしたが、引き続き事業を進めていくため給水区域を市内全域とする変更認可を受けました。そして、昭和39年4月に一部給水を、また昭和41年7月に全域に給水を開始しました。

創設事業認可	昭和36年12月
給水区域	市内全域
計画給水人口	40,000人(目標年次昭和49年度)
一日最大給水量	8,800m ³



北山田浄水場完成

第1次拡張事業

昭和35年に35,022人であった人口が昭和42年には40,349人と急速に人口の増加が進み、北山田浄水場での給水人口が超過する事態となってきました。

また、市内の高地である馬場、岡本、山寺新田、山寺に送水するには、再度加圧しなければならなかったため、送水管の太さや材質に制約があり、布設整備の問題となっていました。そのため、市内高地の追分町字九日田(現：追分南四丁目)に、新たに深井戸を水源とする急速ろ過方式の浄水場建設を計画しました。そして、昭和47年深井戸2基による給水を開始しました。

第1次拡張事業認可	昭和45年2月(口クハ浄水場の新設)
計画給水人口	67,000人(目標年次昭和50年度)
一日最大給水量	20,100m ³
水源	深井戸2,000m ³ ×6基
口クハ浄水場施設能力	12,000m ³ /日

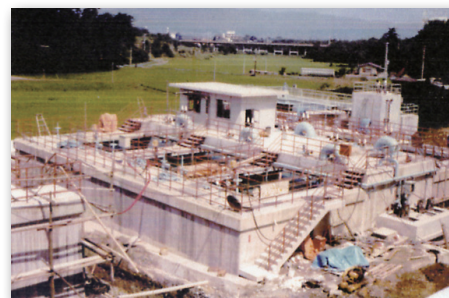


口クハ浄水場新設

第2次拡張事業

口クハ浄水場の地下水の取水については、付近住民および工場より苦情があり、地下水枯渇、地盤沈下等の問題が提起され、さく井用地の買収が困難となっていました。また、山手開発として国立医科大学、琵琶湖ニュータウン、工業団地等の山手開発に伴い、水需要が急速に拡大したことから、その対策として草津用水(農業用水)の施設を共用し、琵琶湖表流水を水源とする口クハ浄水場の拡張が計画されました。そして、昭和53年4月に一部給水を開始しました。

第2次拡張事業認可	昭和50年2月(口クハ浄水場の拡張)
計画給水人口	87,000人(目標年次昭和56年度)
一日最大給水量	47,850m ³
水源	深井戸2,000m ³ ×2基 及び琵琶湖表流水
口クハ浄水場施設能力	7,300m ³ /日(旧館) 28,300m ³ /日(新館)



口クハ浄水場拡張工事

第3次拡張事業

本市の人口は、昭和60年に86,632人と急増し、第2次総合計画の平成2年度推定人口は、103,000人となっていました。そのため、今後の給水人口の伸びを考えて、北山田浄水場の拡張を考えたことになりました。

そして、平成3年に一部給水を開始し、平成4年に第1期を、平成13年に第2期工事を完成しました。



北山田浄水場拡張工事



北山田浄水場第3次拡張事業竣工式

第3次拡張事業認可	昭和62年3月（北山田浄水場の拡張）
計画給水人口	計画111,200人（目標年次昭和68年度）
一日最大給水量	67,450m ³
北山田浄水場能力	27,850m ³ /日

第4次拡張事業

第3次拡張後の将来の水需要に対応するため、滋賀県南部上水道供給事業（現：湖南水道用水供給事業）に参画して受水することを目的とする拡張事業を計画しました。そして、平成17年から受水を開始しています。

第4次拡張事業認可	平成13年11月
計画給水人口	133,100人 （目標年次平成22年度）
一日最大給水量	71,400m ³
一日最大給水能力	63,450m ³ /日
受水水源	7,950m ³ /日（滋賀県企業庁）

なお、平成24年8月に、琵琶湖からの水利使用の更新許可（水利権）を受けました。この結果、北山田浄水場の浄水量を21,520m³/日とし、平成33年度末の一日最大給水量を59,120m³/日としています。

